

大空への鎮魂

第 25 号 平成 25 年 (2013) 10 月 20 日

特定非営利活動法人
旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会
発行者 臼田 智子

新ホームページ
<http://www.okegawa-hiko.jp>

終戦の日にあたる 8 月 15 日と翌日の 16 日、読売テレビ（関東は日本テレビのネット）、テレビ埼玉、NHK 首都圏ネットワークで、桶川飛行学校や当時幹部だった伍井芳夫中佐が取り上げられて放映されたため、17、18 日には、1 日 130~140 名の見学者が訪れました。これに先立つ 7 月下旬、浦和駅前のビルで開催された「平和のための埼玉の戦争展」で、本会は『練習機を灰褐色に塗り替えて』のテーマで、桶川で編成された、陸軍で初めての練習機による特攻隊第 79 振武隊の展示を行いました。

桶川では 4、5 隊の特攻待機部隊が訓練していたようですが、その特攻待機部隊に小指を切った血で書いた『轟沈』の鉢巻きと激励の短歌を送った女性から、8 月下旬事務局に手紙が届きました。



送る歌

新井和子

殉皇の君が締めゆく額ぬかの文字

指の痛みも嬉しかりける

我が文字の見事空母を轟沈す

明日を思へば血潮わきたつ

返歌

藤田一慶少尉

清き血で染めし二文字轟沈の
ふたもじ

君がまことにいかで答へむ

昭和二十年五月、桶川市の隣、現・北本市に住んでいた少女が、その叔母二人とともに、桶川で特攻訓練をしていた隊員に、それぞれが小指を切り血で書いた『轟沈』の鉢巻きを送りました。少女はこれに歌を添えたところ、右の歌が返されてきました。

返歌の主は、第九四振武隊の藤田隊長。写真の鉢巻きは、その前月、第七九振武隊から外され、戦後、桶川にお住まいだった拝司ひがし総吉少尉のご遺族から、数年前に本会が預かったもので、裏側に上の叔母の名前「新井久子」の文字があります。鉢巻きは三枚届けたといっことで、三つの待機部隊に送られたものと思われまます。

*第九四振武隊の詳細は次号で。

白井和子(旧姓・新井)さんからのお手紙

60余年も前の話になります。

昭和20年、私は埼玉県立熊谷女学校の4年生で、3年生の秋から学徒動員で学校近くの理研工場へ行き、旋盤でピストンリングを削る仕事をしていました。生家は、現在は北本市、以前は石戸村と言いました。

5月頃のことかと思います。7つと5つ違いの叔母がおり、隣町(当時・桶川町)の三井精機工場に勤めていて、会社から川田谷飛行場(桶川飛行学校)へ兵隊さんの慰問に行くということになりました

敗戦の日が間近に迫っていたのですが、一般の私共には、本当の戦況は分かりませんでした。3人でいろいろ相談して、鉢巻に血書して届けようということになりました。書斎として使っていた3畳くらいの狭い部屋で、

カミソリで小指を切ることになりました。覚悟はしたものの、こわくてなかなかできませんでした。左小指を切り、何とか血を筆に染み込ませ「轟沈」と書き、私は次のような短歌と共に、叔母に託しました。

殉皇の君が締めゆく額^{ぬか}の文字
 指の痛みも 嬉しかりける
 我がそめし つたなき文字に散り給ふ
 君を思えば 涙しながる
 我が文字の 見事空母を轟沈す
 明日を思へば 血潮わきたつ

叔母たちの話によりますと、大変歓迎されたようでした。私には感謝の文とともに、

清き血で 染めし^{ふたもじ}二文字轟沈の
 君がまことに いかで答へむ

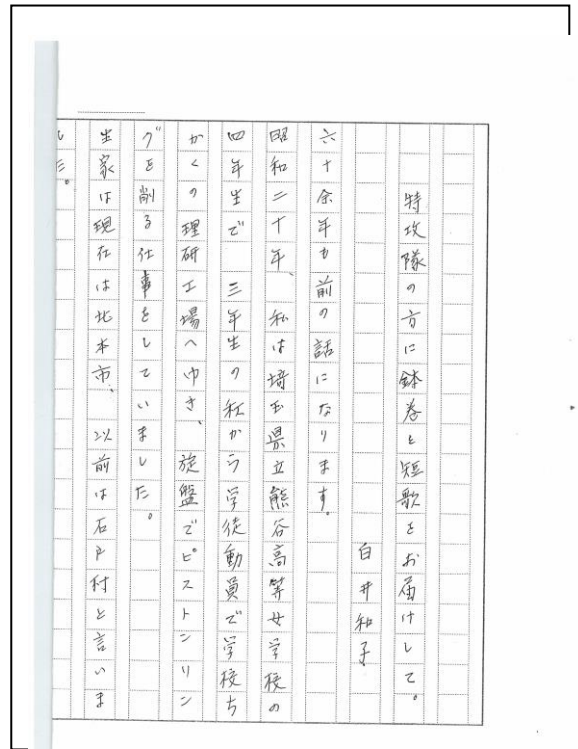
と書かれたお歌をいただきました。たしかお名前は藤田少尉とあったと思います。

その後、どうなされたのか全く知る由もなく、8月15日の終戦を迎えました。

平成になり、細川総理が「大戦は侵略である」と申されました。

大戦は侵略なるや 血書して
 兵励ましし 吾が^{とが}咎深し

(平成25年8月 千葉県野田市在住 白井和子 83歳)



第 79 振武特攻隊員が残したもの (その 14)

二村源八(ふたむら げんぱち)少尉

出身 大分県臼杵市

幹候 9 期

戦死 昭和 20 年 4 月 16 日

(22 歳 戦死後大尉)

<解説>

二村少尉は、桶川から特攻に出る前年、岩手飛行場(岩手教育隊)で訓練しており、加藤昭雄著「最北の特攻出撃基地 後



藤野」にも登場する。岩手教育隊も桶川と同様の飛行学校だったが、特攻の

後列左から：清水、郷田、桜井
前列左から：森山、二村、村田

訓練基地になっていたようで、二村らは行先も告げずに飛び立ったため、地元の人たちは特攻出撃したと思いこんでいた。しかし、その後知り合いの女性あてで教育隊に手紙が届いたため、驚いた幹部が女性に届けたという。当時、隊員は秘密裡にあちこちの飛行場を 2～4 週程度で移駐しながら特攻訓練をしていたといわれ、上記の著書に掲載のほかの写真を見ると、二村少尉のほかにも桶川と似た顔ぶれがある。

隊員 12 名のうちには、幹候(予備士官学校幹部候補生) 9 期出身の二村源八、清水義雄、郷田士郎の 3 名がおり、教官として桶川にいた同期の 3 名(桜井、森山、村田) とともに出発前に記念写真を撮った。写真は上記の著書の中表紙に掲載されていたが、のちに熊本県在住の村田勇馬さんから同じ写真が事務局に送られてきて、桶川での写真と判明した。村田さんによると、二村少尉ら幹候 9 期生 3 名は、いずれも 3 機ごとの長機(先頭)だったという。*加藤昭雄著「一最北の特攻出撃基地—『後藤野』」1995 2,000 円 購入問合せは事務局へ。

二村源八(ふたむら げんぱち)少尉の甥が桶川飛行学校に来訪

今まで遺族と連絡の取れなかった大分県出身の二村源八(ふたむら げんぱち)少尉の甥・山口新平さんが、4 月 14 日(日)桶川飛行学校を訪れました。特攻というものと叔父の辿った生涯に涙し、その思いを綴ってくださいました。

語り継ぐ会の皆様に深い敬意と感謝

山口（旧姓：二村） 新平



私はこの地で特攻隊員として訓練を受けた故・二村（ふたむら）源八の甥にあたります。

叔父が特攻隊員として散華したことは幼少の頃より聞いては

いました。しかし、詳しいことについてはほとんど聞かされておりました。私の記憶にあったのは、鹿児島県の知覧から飛び立って沖縄で戦死したという程度のものでした。

私自身、昭和23年生まれのため、叔父との接点はまったくありません。叔父の兄弟もすでに全員が鬼籍に入っており、親類縁者の話を聞いてみても断片的なものしかないのが実情です。不覚にも、桶川で訓練を受けたことも、岩手にいたことすらも昨年まで知りませんでした。そのため、私の頭の中には「知覧」しかありませんでした。

桶川のことを知ったのは、昨年他界した兄の葬儀がきっかけでした。義姉（兄嫁）の甥からブログのコピーを渡され、初めて「旧陸軍桶川飛行学校」なるものの存在を知りました。このとき、私の心を突き動かすものを感じ、叔父の足跡を辿ってみようと思い立った次第です。

なぜそのような気持ちになったのかは私にもよくわかりません。しいて言えば、私の父が死ぬ間際に家族と交わした会話のなかで、私のことを「戦死した」と言っていたようで、おそらく記憶の中で叔父のこととごっちゃになっていたのだらうと推測します。

長男、次男、長女までははっきりと名前が出るのに、なぜか末っ子の私を飛ばして孫の名前に

行ってしまうのだそうです。何度繰り返しても同じで、「新平は？」と尋ねると、「あいつは戦争で死んだ」と応えるのだそうです。私は昭和23年生まれ、戦争を知らない世代です。

（中略）

平成19年11月14日、勤務先の海外から一時帰国中の私は、知覧特攻平和会館を訪れました。叔父の写真を目の前にしたとたん、周囲の目もはばからず、涙があふれて止まりませんでした。そして叔父の写真の前で手を合わせ、思わず「出直して来ます」と言いました。鹿児島空港に向かうバスの中でもハンカチが手放せませんでした。

いつか再び知覧を訪れようと思っていたとき、長男である兄が亡くなりました。私とは一回り離れており、昭和11年の生まれでした。この兄なら叔父のことを少しは覚えていたのではないかと思うと、その話が聞けてなかったことへの悔いが残ります。私の父親も弟を戦争で亡くした辛さからか、多くを語りませんでした。源八の母親である祖母二村ヤスからもそんな話は聞いたことがありません。

知覧を訪れた私は、叔父に関するものが何か探しました。しかし、他の方々が手紙や辞世の句などを残している中、叔父に関するものは何もありませんでした。そんなこともあり、桶川に行けば何かあるのではないかとの期待をしました。しかし、やはり書いたものもエピソードもないようでした。ただ、若干の手がかりになりそうなものはありました。

叔父はよく本も読んでいたようで、実家には多くの本が残されていたように記憶しています。例えば島崎藤村の「夜明け前」は白い表紙の分厚い本だったと記憶しています。かと思えば、ヒトラーの「我が闘争」などもあったと思います。岩波文庫の文庫本もたくさんありましたが、題名は記憶しておりません。

学業成績も優秀だったようですが、貧乏な二村家では上の学校に進むことは望めない状況だったそうです。そんな中、近所の名士が大学まで面倒を見て下さったそうです。そんな叔父も、「どうしても1番になれない」とこぼしていたそうです。そのとき常に1番だった方が私の中学3年生のときの担任だったのです。「叔父さんは優秀だったぞ」と言われるのは辛かったです、嬉しくもありました。

そんな叔父ですから、書いたものの一つや二つはあってもおかしくないのに・・・という思いは未だ消えません。実家に近ければ探すのですが、なかなか九州までは帰る機会が少ないのが実情です。私が長い間外国で仕事をしていたため、実家に帰る機会に恵まれなかったということもあります。

実家は55年ほど前に建て替えております。そのときに屋根裏部屋を作り、そこにあった長持の中に遺品があったと思います。先ほどの本もそこにありました。しかし、40年ほど前にその部分を改造して増築をしています。その際に行方不明になってしまったものも多いのではないかと思います。

軍刀も半分に切り落とされていたのを覚えていますし、私自身、軍服を改造（今ではリフォーム）したものを普段着にしていたことがあります。



二村源八少尉（撮影地不明）
提供：知覧特攻平和会館

軍隊用の弁当箱や水筒、飯ごうもありました。父と山仕事に行くときに使っていました。同じように国防色のリュックもありました。父は「雑囊」と言っていました。靖国神社に展示しているものの中にも同じものがありました。実家に帰る機会があれば探してみようと思います。はっきり分かっているのは「金鵄勲章」があることです。

遺骨もない叔父の墓は私が小学生の時に建てられました。白い御影石（人造ですが）で、二村家先祖代々の墓の隣にあります。灯油の臭いがする石で姉と二人、一生懸命に磨いたことを思い出します。

丘の上に立つ墓からはしっかりと実家が見通せません。刻まれている戒名は、「捨身院報國日源居士」。今改めてこの戒名の意味を思い起こしています。

今回は桶川を訪れるに当たり、叔父の命日である4月16日の前にということで、靖国神社に参拝をしました。本殿に昇殿し、玉串奉奠をしました。二村源八の名で祝詞もあげてもらい、心の隅に引っかかっていたものが少しすっきりしました。



出撃前に書いた二村少尉の墨蹟
お手紙の後、山口さんがお帰り後にお送りした。
清水義雄が全隊員のものをまとめていた。
（提供：知覧特攻平和会館）

何よりもうれしかったのは、「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」というものがあり、それに携わって下さっている方々がおられることを知ったことです。しかも非常に熱心に活動をしていただいている事に深い敬意を表するとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、桶川の、この跡地は新たに作られた祈念館などとは異なり、当時のままの姿をとどめているという意味でも非常に重要な意味があり

ます。このままの姿で保存するのが一番だと思っています。とはいえ、このまま保存するのは大変なことでもあります。

私も今回の訪問を機に叔父の足跡を辿る旅をまた一步進むことができるような気がします。新たな発見がありましたらお知らせします。

また桶川を訪問できる機会が訪れることを心待ちにしております。 (大阪市在住)

◆ 8月15、16日テレビ放映 全国ネットも

15日 午後1:55～ 読売テレビ＝日本テレビ放送網 全国ネット

情報ライブ「ミヤネ屋」 キャスター宮根誠司

第23 振武隊隊長・伍井芳夫中佐の生涯を再現ドラマを交えて紹介するとともに桶川飛行学校、柳井元整備員を紹介

15日 午後9:30～ テレビさいたま ニュース特集

5月に桶川分教場で行われた映画「空人」撮影と原作者清宮零氏のインタビュー

16日 午後6:10～ NHK総合テレビ「首都圏ネットワーク」

戦争遺跡「熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」の紹介と本会の活動

◆ 分教場建物の保存に関する工学院大学教授の意見書を桶川市に提出

本会では、8月27日工学院大学の宮澤健二名誉教授（建築学）を分教場建物に招いて、将来に向けての保存に関する意見をいただきました。さらに、元文化庁調査官で同大学後藤治教授の意見書もいただき、合わせて9月24日、桶川市長に提出しました。

◆ 分教場入口(柏原バス停脇)に、写真入りの看板(1800×900)設置

駅からハイキング

◆ 10月13日(日)JR駅からハイキング 桶川分教場に630名来場



<編集後記>

8月放映の首都圏ネットワーク。NHKのさいたま放送局の若い記者から当初、学徒出陣70周年企画として提案されたので、県内鶴ヶ島市在住の特撮1期桶川出身の内野芳夫さんを紹介し、インタビューの様子を収録しました。桶川分教場の歴史を掘り下げて映像化してほしいと思いましたが、残念ながら、数年前と同様、不肖、私の活動の様子を中心に描く結果となりました。今の若い世代、いくら歴史を説明しても、どこか、感覚が違う、戦争というもの受け取り方が違うなと感じました。(S)

特定非営利活動法人

旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

会長 臼田 智子

(法人住所) 桶川市西2-4-21 会員 130名

[事務局] 〒350-0133 埼玉県比企郡川島町表403

(鈴木) 電話(携帯)090-2554-7429 入会は郵便振替で番号00120-8-297950に「年会費」振り込み。

名義「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」

通信欄に「入会申込」と記入。できればコメントも。年会費2,000円。振込料不要の用紙希望はお電話で。

「大空への鎮魂」年4回250部発行。